

国際交流基金

ジャパンファウンデーションとは

世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する組織として、1972年10月に特殊法人として設立され、2003年10月に外務省所管の独立行政法人となりました。現在、本部と京都支部、ふたつの附属機関(日本語国際センター、関西国際センター)、および海外21カ国に開設された22の海外拠点を中心に、外部団体と連携しつつ、文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流を3本の柱として活動しています。政府出資金(780億円)を財政的基盤とし、この出資金の運用益、政府からの運営費交付金および民間からの寄附金などにより運営しています。役職員数は230名(2011年3月現在)です。

沿革

1972年	国際交流基金(The Japan Foundation)設立
1989年	日本語国際センター(埼玉県)設置
1991年	日米センター(Center for Global Partnership)設置
1997年	関西国際センター(大阪府)設置
2003年	独立行政法人国際交流基金となる
2006年	日中交流センター設置

国際交流基金の設立の目的は2002年(平成14年)に定められた以下の法律に則ったものです。

独立行政法人国際交流基金法 第3条

「独立行政法人国際交流基金は、国際文化交流事業を総合的かつ効率的に行うことにより、我が国に対する諸外国の理解を深め、国際相互理解を増進し、及び文化その他の分野において世界に貢献し、もって良好な国際環境の整備並びに我が国の調和ある対外関係の維持及び発展に寄与することを目的とする」

国際交流基金の活動の3本の柱

文化芸術交流

芸術や暮らしのなかで生まれた日本の価値観と世界の価値観が触れ合う機会をつくりだす

言語の違いを超えた感動は、日本への興味と共感を生み、理解を促す源泉となります。国際交流基金は、そのような源泉を生み出す場の提供をめざし、美術、音楽、演劇、文学、映画などの芸術から、食、ファッション等の生活文化にいたるまで、日本の文化芸術を紹介し、文化芸術分野のグローバルな交流をプロデュースし、各分野のネットワークづくりを支援しています。

海外における日本語教育

日本語を理解する人を増やすこと

それは世界に日本の理解者を増やしていくこと

海外の人たちに日本語を知ってもらうことは、日本への親しみや理解を世界に広げていくことにつながります。国際交流基金は日本語教育が世界で活発に行われるよう、全世界規模での日本語能力試験(JLPT)の実施や教材開発、海外日本語講座の展開、日本語教育の専門家の海外への派遣、海外で教える教師の国内研修など、さまざまな側面から日本語教育を支援しています。

日本研究・知的交流

日本への深い理解と世界の「知」への関心

ふたつが交錯するところに

世界共通の課題を解く鍵がある

海外での日本研究を支援すること、遠い国の社会や文化への理解を日本のなかで広げていくことは、相互理解を深め、心をひとつにして共通の課題の解決に向かっていくことにつながります。国際交流基金は深い日本理解と人的ネットワークの形成を促進するため、海外の日本研究者を支援し、また国際的に著名な学者を日本に招くなど、学術や研究を通じて国際交流を積極的に推し進めています。